

# 東京日々新聞

八百六十号



客あり曰く  
前さふ福沢氏が楠公  
権助の論と出せり或は之と  
激し或は之と辨し一時各新聞紙上此  
論と載せざるは無し而して此一大議論の  
漸く陳腐し属し又人之之を論辨せざる者  
無しと思ひし今尚此論と記載す獨り朝野新聞  
ありと樵夫あり微笑して曰く客知らばや朝野新聞の元を公文通誌  
より楠公権助の論出する公文の二字は此條の舊稱を係るとして之を  
廢し改元して朝野新聞と号す蓋し正成朝臣と  
権助野郎の頭字と取り以て朝野の二新奇字  
と拈し來す是と専ら楠権二公の討論に従事  
する所以あり更し推しむ不足らば何んぞ其陳腐と  
以て其本旨の存する所と存くを得んや余傍立  
して此問答を聽き大に感服する所あり夫と行と  
貴ひ口と賤ひの一字内新聞の通弊を  
而して朝野の獨り此弊風と追ひ去れ去れ  
小孤空して梅花の元氣を今日小維持す保君も  
抑誰の力も何んぞ知らん此樵夫も亦南朝の  
遺民に非ざらん

楠公

権助

蕙齋  
芳幾

甲辰具足尾

彫春

